

巻 頭 言

北海道算数数学教育会
高等学校部会長 菊 池 隆 夫
(北海道札幌啓成高等学校長)

1983年(昭和58年)1月15日に第1回が実施された「北海道高等学校数学コンテスト」も回を重ね今年で第26回目を迎えることができました。

今年は道内26校から376名の高校生・中学生の参加申込を得て、1月11日(金)に札幌会場(札幌北高校彩風館)他全道17の会場で滞りなく実施できましたことは関係者一同喜びにたえません。

当コンテストに対する認知が定着し、数学に対する興味・関心や重要性が認識されてきた証左であるとともに、全道各地で熱心に指導に当たっておられる先生方の努力の結晶と厚く感謝と敬意を表します。

中・高校生の理系離れ、数学嫌いの増加が指摘されて久しく、また、昨年12月に公表されたOECDによる3回目の国際学習到達度調査(PISA)の結果は日本が得意としてきた理数系の低迷が浮き彫りとなり、中でも高校1年生の数学的応用力は前回2003年調査の6位から10位に後退するなど技術立国日本の将来が憂慮されております。

このような状況下で当コンテストに314名の中・高校生が挑戦し問題に取り組んだことを大変心強く感じております。

北海道が発祥となった数学コンテストが群馬県に続いて今年度から京都府でも実施され、しかも府教育委員会が主催となって始まったことは喜ばしい限りであります。

数学コンテストの目的として国際数学オリンピックに出場するような優秀な生徒の発掘・顕彰の面はありますが、全道の各学校に必ずいるはずの数学好きの生徒にさらに興味を抱かせ、数学の奥深さ、面白さを実感してもらうことも大切な趣旨であると考えます。

今年度は該当者がおりませんでした。例年、当コンテストがオリジナルかつユニークな発想やエレガントな解法に得点以外の評価対象として部門賞の名前で「特別賞」を設けていることは前述の教育の観点からも意義深いことと思えます。

どうかこのような趣旨を理解され、今回秀でた成績を収めた生徒は大いに自信を持ってさらに邁進されることを期待するとともに、不本意な出来であった生徒も決して落胆することなく、地道な学習を重ね力を付けていくことを願っております。

数学に興味を持ち、思考を楽しむ多くの生徒が来年も奮って参加し、北海道から全国、世界に発信・飛翔するコンテストとなることを期待しております。

最後になりましたが、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道高等学校長協会、北海道新聞社の後援、並びにベネッセコーポレーション、北海道電力、北洋銀行、北海道情報大学、予備校クラブユニック、IMS数学英語ゼミのご協賛に厚くお礼と感謝を申し上げます。

また、問題作成や採点そしてコンテストの運営全般にボランティアでご苦勞されました北数教高校部会代数解析研究部の先生方、さらには全道各地で実施にご協力を戴きました会場校の関係の先生方に心からお礼申し上げ巻頭の挨拶と致します。